

## 児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和4年3月1日

事業所名 アトム放課後等デイサービス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%		活動内容に応じてスペースの使い方を工夫している	活動エリアの工夫や構造化をし、個別活動と集団活動の区別をわかりやすくしていく
	2	職員の配置数は適切である	100%		子どもと保護者のニーズに対応できるようにしている	指定基準に定める人員基準に加えて児童指導員等(2名)強度行動障害支援者養成研修(基礎研修・実践研修)修了者(2名)を配置
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%		室内(玄関)に段差はない。写真等を取り入れ視覚支援をしている	子どもに応じた安全性の確認(危険予知)を心がけていく
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%		毎日、掃除機・拭き掃除・消毒等を行い清潔に保っている	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%		支援計画に沿って、日々の支援内容の確認や個人日報を記録するにあたりPDCAサイクルを職員が実践している	ケース会議やミーティング等の時に実践していく
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%		最低、年1回アンケート調査を実施し業務改善をしている	更に詳細な保護者等の意向の把握し、業務改善につなげるように努力する
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%		ホームページに公開 <a href="https://atom-aresupport.com/">https://atom-aresupport.com/</a> 会報「アトムだより」と事業所内掲示にて公開している	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		100%		今後、検討していく
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%		虐待・身体拘束・感染・人権等の各研修を年間計画で実施している	職員に事業所内及び外部研修等の機会を設けていく
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%		アセスメントを適切に行い個別支援計画を作成している	より丁寧に子どもと保護者にアセスメント(面談)を行い子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成していく
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%		アセスメントシートを使用している	毎回、同じアセスメントシートを使用し子どもの状況を把握し重ねて記録していく
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%		必要な項目を適切に選択し支援内容を設定している	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%		支援計画に沿って支援を行っている	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%		活動プログラムを複数の職員で考えている	活動プログラムを全職員で考えていく
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%		活動プログラムを固定化しない様になっている	活動プログラムを固定化しないように配慮していく

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%		個別活動・集団活動等、子どもの目標の沿って児童発達支援計画を作成している。	子どもの状態に応じて 個別活動・集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成し個別支援計画に基づくその日の支援計画を具体的に話し合っていく
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%		その日の支援内容を確認し送迎の分担や支援を行う上で、必要な分担等のミーティングを行っている	職員間で、送迎や支援について分担確認を行っている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%		個別支援日報の記録の際、共有・振り返りを行っている。	職員間で支援終了後に共有・振り返り等を行う。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%		個別支援日報を日々記録し、検証・改善に役立っている	個別支援日報に正確に記録を徹底し、改善に努めるようにしていく
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%		保護者・利用者とのコミュニケーションを図り、定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	見直しが必要であれば都度、更新していく
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%		その子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画するようにしている	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100%		必要に応じて連絡を取り支援を行っている	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				これまでに該当する事例はありませんが、必要な場合は積極的に連携して支援する
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				これまでに該当する事例はありませんが、必要な場合は積極的に連携体制を整える
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%		共有している	必要に応じて情報共有・連携を取る
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%		学校等と情報共有を図っている	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%		専門機関等と連携し、情報共有・助言・研修を受けた事案がある	必要な事案があれば都度連携を取っていく
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	100%		地域の公園や職員のお子様を招いて活動する機会がある(コロナ禍で自粛)	課外活動等で、公園・地域のイベントに参加し機会を維持していく
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		100%		参加を検討していく
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%		保護者と子どもの発達状況等を伝え合い共通理解を得ている	電話や送迎時に伝え合い共通の理解を持っている。できるだけ直接伝えようとしても会えない場合は、電話やメールで行う
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		100%		保護者等が相談しやすい環境を整備していく。(コロナ禍がおちついたら実施)

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%		契約時や変更等があれば随時説明	必要に応じて丁寧に説明を行う
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%		面談・担当者会議を行い計画書を作成し同意を得ている。	計画に変更があれば都度、変更し保護者から同意を得る。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%		適時行っている	必要時に応じて支援を行っている。保護者との連絡を密に取り連携を取る
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%		コロナ禍でイベントに保護者を招き連携を支援する企画を現在、延期している	年に1度は、保護者会等を開催し保護者同士の連携を支援する
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%		相談があった場合に対応を迅速に行っている	職員が適切に対応できる様にミーティング等で周知し迅速かつ適切に対応する
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%		アトムだよりを月に1回発行、不定期に子どもの活動の写真を配布している	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%		個人情報の管理を徹底している	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%		連絡帳やメール等を利用している	利用者さんや保護者との意思疎通(口頭・書面等)で配慮を行う
非常時等の対応	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		100%		コロナ禍が落ちついてから実施する
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%		各マニュアルを策定している	各マニュアルを周知する
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%		定期的に年に2回以上(1回は消防署立会い)の訓練を実施している	大阪市防災センター等の防災学習施設を利用
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	100%		服薬・持病の把握をしている	面談の時に症状を確認する
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%		医師の指示書及び食物アレルギー疾患に関する調査票を保護より提出していただき対応している	医師の指示書に基づく対応をする
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%		危険な事などがあればヒヤリハットを記録し共有している	ヒヤリハットの記録を残し事業所内で共有する
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%		虐待防止の研修を設けている	職員のメンタルヘルスチェック等をする
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100%		十分に説明して子どもと保護者に身体拘束の同意を得ている。支援計画に記載し、職員でも話し合っている身体拘束をした際には、記録している	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。